

大学コンソーシアムひょうご神戸
2023年度 第3回 国際交流委員会
議事次第

日 時：2023年11月17日（金）持ち回り開催

委員校：兵庫県立大学（委員長校）、神戸市外国語大学（副委員長校）、明石工業高等専門学校
芦屋大学、大手前大学、大手前短期大学、関西国際大学、関西福祉大学、関西学院大学、
聖和短期大学、芸術文化観光専門職大学、甲南大学、甲南女子大学、神戸海星女子学院大学、
神戸大学、神戸学院大学、神戸国際大学、神戸市看護大学、神戸松蔭女子学院大学、
神戸女学院大学、神戸親和女子大学、神戸常盤大学、神戸常盤大学短期大学部、
園田学園女子大学、園田学園女子大学短期大学部、姫路獨協大学、
兵庫大学、兵庫大学短期大学部（計28校）

I. 審議事項

1. 2023年度国際交流委員会事業自己評価について（資料1）
【取組1】兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業
【取組2】加盟校の国際交流プログラムとの連携促進事業
①学生海外派遣プログラム
②模擬国連演習（JUEMUN）
③事業年度内で加盟校で企画・実施し、加盟校に開放された国際交流プログラム

II. 報告事項

1. 大学コンソーシアムひょうご神戸の付加価値について（資料2）
大学コンソの認知・イメージアップ施策の検討を目的とした「加盟校教職員へのアンケート調査」の結果
(2024年度の事業計画策定の際に参考にする予定)

III. 連絡・調整事項

1. 2023年度の国際交流委員会開催予定と主な議題について
第4回委員会 2月：2024年度 事業計画・予算（案）
第5回委員会 3月：2023年度 事業報告・決算（案）

以上

<資料一覧>

資料1-1：【理事長名依頼状】2023事業計画の「自己評価」の作成依頼

資料1-2：2023年度 国際交流委員会事業 自己評価（案）①～④

資料2：大学コンソーシアムひょうご神戸の付加価値について

2023年11月吉日

大学コンソーシアムひょうご神戸
事業委員会 委員長 各位

大学コンソーシアムひょうご神戸
理事長 中井 伊都子

拝啓 晩秋の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は当コンソーシアムの活動に深いご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当コンソーシアムでは、各事業委員会にて実施頂きました事業について「自己評価」を作成していただき、その内容をもとに企画運営委員会及び理事会にて事業の継続・改善等を検討することとしております。

つきましては、当コンソーシアムの活動の更なる充実のため、ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

敬具

記

1. 各事業委員会への依頼内容と提出期限について

依頼内容：2023年度事業の実施内容（結果）と自己評価の作成、提出

2023年度事業計画（添付1）に基づき、プログラムごとに実施内容（結果）と自己評価を作成してください。12月以降に実施予定のプログラムについては、進捗状況を具体的に記入ください。

提出期限：12月5日（火）正午

2. 今後のスケジュール

- (1) ひょうご産官学連携協議会の構成員である兵庫県及び経済団体（兵庫県商工会連合会、兵庫県中小企業家同友会、兵庫県中小企業団体中央会）の意見聴取：12月
- (2) 第9回企画運営委員会による事業改善提案の検討：12月
- (3) 第5回理事会による事業改善提案の審議：1月
- (4) 各事業委員会へのフィードバックと2024年度事業計画・予算提出依頼：1月
- (5) 第11回企画運営委員会にて2024年度事業計画・予算検討：2月
- (6) 第6回理事会による2024年度事業計画・予算審議：3月
- (7) ひょうご産官学連携協議会にて、2024年度事業計画・予算審議：3月

(添付書類)

- ・添付1 2023年度 事業計画（事業委員会別）

以上

【問い合わせ先】大学コンソーシアムひょうご神戸事務局（担当：足立・大濱）
電話：078-271-0233 メール：kanri@consortium-hyogo.jp

国際交流委員会

委員長校 : 兵庫県立大学

副委員長校 : 神戸市外国語大学

委員校 : 明石工業高等専門学校、芦屋大学、大手前大学、大手前短期大学、関西国際大学、関西福祉大学、
 関西学院大学、聖和短期大学、芸術文化観光専門職大学、甲南大学、甲南女子大学、
 神戸海星女子学院大学、神戸大学、神戸学院大学、神戸国際大学、神戸市看護大学、神戸松蔭女子学院大学、
 神戸女学院大学、神戸親和大学、神戸常盤大学、神戸常盤大学短期大学部、園田学園女子大学、
 園田学園女子短期大学部、姫路獨協大学、兵庫大学、兵庫大学短期大学部 計28校

<目的>

「国際都市神戸」を有する兵庫県の大学・短期大学・短期大学部・高等専門学校が加盟する
 コンソーシアムとしてグローバル人材育成を目指した事業を展開する。

<内容>

1. 兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業
2. 加盟校の国際交流プログラムとの連携促進事業
 - ・学生海外派遣プログラム
 - ・模擬国連演習（JUEMUN）
 - ・事業年度内で加盟校で企画・実施し、加盟校に開放された国際交流プログラム

<期待される効果>

1. 兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業
 学生が主体的に学ぶことによる行動の変容、大学連携・産官学連携による留学生支援の新たな課題とニーズの取組
 促進、高度外国人材としての留学生の理解促進等の効果が期待される。
2. 加盟校の国際交流プログラムとの連携促進事業
 各加盟校の強み・特徴を活かした国際交流プログラムを加盟校に開放することで、自学では得ることができない
 学びの経験とネットワークの構築の機会を学生に提供でき、加盟校の学生の学びが深まり、幅が広がること
 が期待される。
 また、加盟校が抱える国際交流の課題を加盟校間で共有し、解決に向けたプログラムを実施することで、加盟校
 全体の国際交流の課題解消、多文化共生社会で活躍する学生の育成に繋がる効果が期待される。

課題⑤ 外国人留学生と日本人学生等の交流促進		予算額
【取組1】	兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業	9,625,000円 * 受託事業収入
【取組2】	加盟校の国際交流プログラムとの連携促進事業 ①学生海外派遣プログラム ②模擬国連演習（JUEMUN） ③事業年度内で加盟校で企画・実施し、加盟校に開放された国際交流プログラム	50,000円

【2023年度 国際交流委員会 自己評価(⑤取組1)】 (案)

【取組1】 達成目標	本プログラムへの参加を通じて国際理解が深まったことを実感する学生の割合：参加学生の80%以上 (期間中2回測定)
【取組1】 活動指標	各年参加者数500名以上

課題⑤	外国人留学生と日本人学生等の交流促進
達成目標【⑤取組1】	本プログラムへの参加を通じて国際理解が深まったことを実感する学生の割合：参加学生の80%以上 (期間中2回測定)
課題を解決する取組概要【⑤取組1】	兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業の実施
活動指標【⑤取組1】	各年参加者数500名以上

内容(結果)	<p>大学連携による国際交流の拠点を、大学キャンパス外の地域社会に形成することで留学生と日本人学生、地域の人々が学びあう多文化共生社会に向けた場を創造する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 外国人留学生の活用と相互理解・共生推進のための事業 <ul style="list-style-type: none"> ○学生組織構築活動TeamG-navi「ファシリテーション・プロジェクト演習」 【実施】2023年5月～7月(計7回) 【定員】15名 【対象】日本人学生・留学生(N2以上)・社会人 【実績】131名 ○大学等との連携による協働事業(加盟校等の教学協働プログラム) 【連携予定】甲南女子大学・兵庫県立大学【実施】通年2～3回【定員】20～40名【対象】留学生・日本人学生【実績】42名(プログラム継続中) 高度外国人材としての留学生向けキャリアサポート <ul style="list-style-type: none"> ○英語でのキャリアイベント 留学生向けのキャリアイベントを開催(公益社団法人 関西経済連合会共催) 【実施】2023年7月～2024年2月【定員】30～50名【対象】留学生【実績】64名(8月実施分、2月実施予定) ○キャリアカフェ「Nada Global Village (NGV)」 日本で学ぶ外国人留学生と日本人学生が将来のキャリア形成、自国の文化やアイデンティティ、研究分野など関心がある課題をテーマに、それぞれの価値観・人生観を率直に語り合う場を定期開催 【実施】年間10回【定員】各20名【対象】留学生、日本人学生、社会人【実績】8回開催 646名(プログラム継続中) 【国際理解が深まった】90.5% 防災教育「防災セミナー」 兵庫国際交流会館の地域的特性を生かし、防災減災に備えるセミナー 【実施】2023年未定年1～2回【定員】30～50名【対象】留学生、日本人学生、社会人【実績】2回開催 96名 地域連携プログラム「英語村」 大学生が企画し、中高生等を対象に英語を通じたコミュニケーションの楽しさや学びを提供。 【実施】2023年7～8月、12月【定員】各20名【対象】留学生・日本人学生・地域の小中高生など【実績】3回開催 173名 【国際理解が深まった】100% 留学生・国際交流情報の発信事業・支援者間ネットワークの体制整備 大学連携の特徴を活かした情報発信事業を行い、加盟校・関係団体と支援者間ネットワークを構築。 関係者会議【実績】4機関11名(5月開催分、1月実施予定)
--------	--

新しい試み等(事業計画に記載)									
事業収支	<table border="1"> <tr> <td>収入</td> <td>支出</td> <td>収支</td> <td>備考</td> </tr> <tr> <td>9,625,000</td> <td>5,303,997</td> <td>4,321,003</td> <td>2023.10月末現在</td> </tr> </table>	収入	支出	収支	備考	9,625,000	5,303,997	4,321,003	2023.10月末現在
収入	支出	収支	備考						
9,625,000	5,303,997	4,321,003	2023.10月末現在						

自己評価	【対到達目標】	4	【対継続性】	4
	<p>・日本学生支援機構(JASSO)受託事業の5年目、参加者層の国籍、年齢層、カテゴリーを拡大、ダイバーシティ&インクルージョンの環境での国際交流の拠点を、大学キャンパス外の地域社会に形成できた。 ・地域の国際交流機関や兵庫県との連携も深め、学生を中心とした地域の国際交流、留学生支援機関としての基盤を築いた。</p>			

■自己評価基準
(対到達目標)

- 4:当初計画を上回って達成
- 3:当初計画を達成
- 2:当初計画をやや下回った
- 1:当初計画を下回った

■自己評価基準
(対継続性)

- 4:本プログラムは継続すべき
- 3:本プログラムは継続しても良い
- 2:本プログラムの継続には改善が必要
- 1:本プログラムは中止すべき

理事会からの改善提案(次年度事業計画に反映)	
------------------------	--

【2023年度 国際交流委員会 自己評価(⑤取組2)】(案)

【⑤取組2】達成目標	本プログラムへの参加を通じて国際理解が深まったことを実感する学生の割合：参加学生の80%以上 (期間中2回測定)
【⑤取組2】活動指標	プログラム数10件以上

課題⑤	外国人留学生と日本人学生等の交流促進
達成目標【⑤取組2】	本プログラムへの参加を通じて国際理解が深まったことを実感する学生の割合：参加学生の80%以上 (期間中2回測定)
課題を解決する取組概要【⑤取組2】	加盟校の国際交流プログラムとの連携促進 ①学生海外派遣プログラム ②模擬国連演習 (JUEMUN) ③事業年度内で加盟校で企画・実施し、加盟校に開放された国際交流プログラム
活動指標【⑤取組2】	プログラム数10件以上

内容(結果)	<p>①学生海外派遣プログラム 先端医療技術を用いて高度な医療を提供しているにもかかわらず高額医療費故に十分な医療を受けられない人もいる「アメリカ」で文化的、社会的に全く異なる国を訪問し自らの目で見て体で感じ、帰国後報告会とディスカッションを通して、医療に対する国際感覚を高めることができるプログラム。 【開催】2023年9月8日(金)～9月18日(月) 国際保健医療活動Ⅱ アメリカコースボストン研修 サンフランシスコならびにボストンにて病院、小児病院、研究室、臨床検査関連グローバル企業等へ訪問 【主催大学】神戸常盤大学 【実績】3名</p> <p>②模擬国連演習 (JUEMUN) 国際問題への理解を深めるとともに、交渉力や議論の能力、語学力を含む総合的な国際コミュニケーション能力を高めることを目的とした教育活動プログラム 【開催時期】4月～7月 【主催大学】神戸市外国語大学 【留意事項】選考あり ※英語レベル: TOEIC 750以上, IELTS 5.5以上, TOEFL 76以上, 英検2級以上 【参加費用】5,000円 【実績】29名 主催大学以外のコンソ単位互換協定校の参加学生は無かったが、国際交流委員会より、3大学4名の教職員が開会式に参加、来年度のコンソ加盟大学の学生の参加へ繋がることを期待。</p> <p>③各加盟校の強み・特徴を活かした国際交流プログラムの加盟校への開放で、以下の効果が期待されるプログラム ○自学では得ることができない学びの経験とネットワークの構築の機会を学生に提供でき、加盟校の学生の学びが深まり、幅が広がる事が期待されるプログラム ○加盟校が抱える国際交流の課題を加盟校間で共有し、解決に向けたプログラムを実施することで、加盟校全体の国際交流の課題解消、多文化共生社会で活躍する学生の育成に繋がる効果が期待されるプログラム 一実施内容(2023.10月末現在)一 1) 剣道体験から知る「面白い!日本文化!」 日本文化体験を通して、留学生と日本人学生や留学生間の交流を促進するプログラム。 【主催大学】甲南女子大学【費用】無料【開催】7月8日(土)【実績】94名【国際理解が深まった】96.3% 2) インターナショナルバスツアー 豊岡、加古川 留学生と日本人学生と一緒に、文化・自然体験と企業訪問することで交流や異文化理解を深め、また、ツアー内容を一緒に企画することで視点理解、多国籍な環境下での協働や企画立案の方法などを体験を通して学ぶバスツアー。城崎温泉、鶴林寺座禅、武道・茶道体験 【主催大学】兵庫大学 【開催】10月14日・15日【費用】3,900円(1泊2日)【実績】46名【国際理解が深まった】97.1% 3) ファシリテーション講座 国際社会で活躍できる人材を育成するため、ダイバーシティを活かし合える関係構築力、企画力、ファシリテーション技術力の向上を目的としたオンライン講座。 【主催大学】兵庫大学 【開催時期】6月8日・6月15日【費用】無料【実績】32名【多文化共生のファシリテーションの理解が深まった】100%</p>
--------	--

新しい試み等(事業計画に記載)									
事業収支	<table border="1"> <tr> <td>収入</td> <td>支出</td> <td>収支</td> <td>備考</td> </tr> <tr> <td>50,000</td> <td>14,000</td> <td>36,000</td> <td>2023.10月末現在</td> </tr> </table>	収入	支出	収支	備考	50,000	14,000	36,000	2023.10月末現在
収入	支出	収支	備考						
50,000	14,000	36,000	2023.10月末現在						

自己評価	【対到達目標】	3	【対継続性】	4
	自学の国際交流プログラムをコンソ加盟校へ開放することで、加盟校の国際交流プログラムの参加者の多様性を拡充した。自学以外の大学の学生、留学生との交流が少ない留学生に、他大学の学生、留学生との交流の機会を提供した。イベント企画を通して多文化共生社会で活躍を期待できる人材の育成に貢献した。			

■自己評価基準
(対到達目標)

- 4: 当初計画を上回って達成
- 3: 当初計画を達成
- 2: 当初計画をやや下回った
- 1: 当初計画を下回った

■自己評価基準
(対継続性)

- 4: 本プログラムは継続すべき
- 3: 本プログラムは継続しても良い
- 2: 本プログラムの継続には改善が必要
- 1: 本プログラムは中止すべき

理事会からの改善提案(次年度事業計画に反映)	
------------------------	--

2023年度 国際交流委員会 事業予算(自己評価) (案)

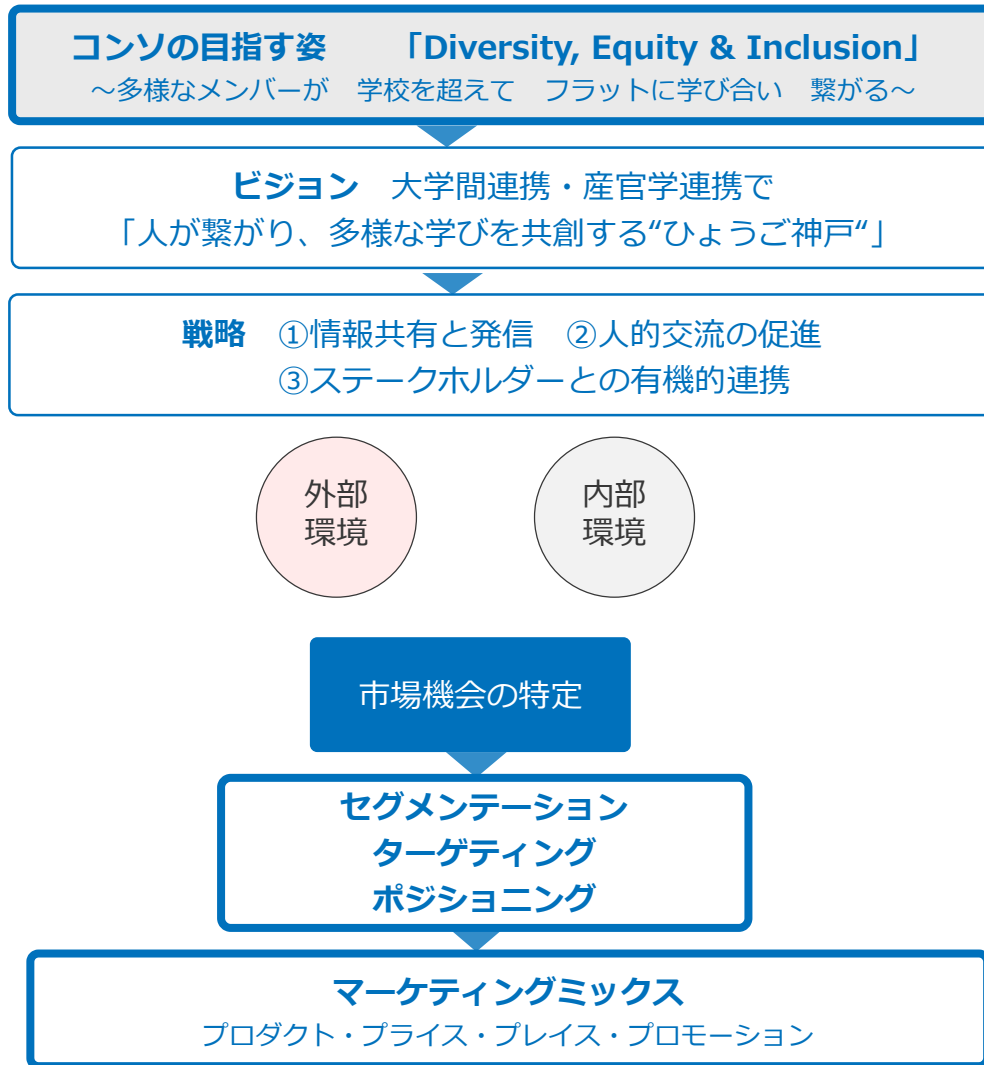
(単位：円)

		予算	決算	各プログラム 予算						委員会 予算			
				【取組1】			【取組2】						
				兵庫国際交流会館における 国際交流拠点推進事業 (JASSO受託事業)			加盟校の国際交流プログラムとの 連携促進事業						
				内訳	予算額	決算額	内訳	予算額	決算額	内訳	予算額	決算額	
収入	会費収入	50,000	50,000					50,000				100,000	
	助成事業収入	0											
	受託事業収入	9,625,000	9,625,000	JASSO受託事業収入	9,625,000								
	プログラム収入	0											
	雑収入	0											
	戻入金	0											
	計	9,775,000	9,775,000		9,625,000			50,000					100,000
支出	会議費	100,000	107,001	会議費	80,000	107,001				会議費	20,000		
	旅費交通費	140,000	66,360	旅費	100,000	52,360	旅費交通費	20,000	14,000	旅費交通費	20,000		
	通信運搬費	70,000	76,087	郵便、通信費	50,000	76,087				通信運搬費	20,000		
	消耗品費	50,000	92,632	消耗品費	50,000	92,632							
	新聞図書費	10,000	3,036	新聞図書費	10,000	3,036							
	印刷製本費	30,000	0				印刷製本費	30,000					
	光熱水料費		0										
	賃借料	40,000	9,900	賃借料	40,000	9,900							
	保険料		2,860	保険料		2,860							
	謝金	1,191,000	688,512	贈謝金	1,161,000	688,512				謝金	30,000		
	租税公課		0										
	支払手数料	22,000	17,160	振込手数料	22,000	17,160							
	諸会費		0										
	委託費	852,000	364,790	HP制作費・業務委託	852,000	364,790							
	人件費	7,260,000	3,889,659	コーディネーター	7,260,000	3,889,659							
	接待交際費		0										
	支払支援金		0										
	雑費	10,000	0							雑費	10,000		
計	9,775,000	5,317,997		9,625,000	5,303,997		50,000	14,000				100,000	

収入-支出	4,457,003	2023.10月末現在
-------	-----------	-------------

大学コンソーシアムひょうご神戸の付加価値について

～コンソの認知・イメージアップ施策検討用「加盟校教職員へのアンケート調査」に向けて～



※実行・モニタリングでPDCA回す

2022年度
策定2023年度
策定

中長期計画Ⅱ期（柱4）

「加盟校が活性化する大学間連携組織
としての運営体制の構築」

【アンケート目的】

教職員・学生・地域社会のステークホルダー等に対するコンソの認知度向上、イメージのアップのための事業設計、広報活動等に生かすため

【アンケート活用】

- 現状把握することで今後の効果的な情報発信施策に活用
- 理想ターゲット層を増やす施策の立案

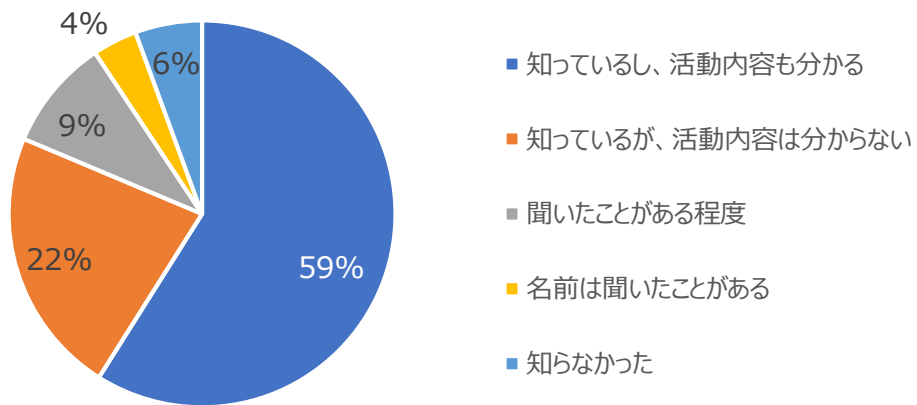
※ターゲットペルソナのカスタマージャーニーは別紙参照（お手隙時にお目通し下さい）



【成果】※短期目標は10月末

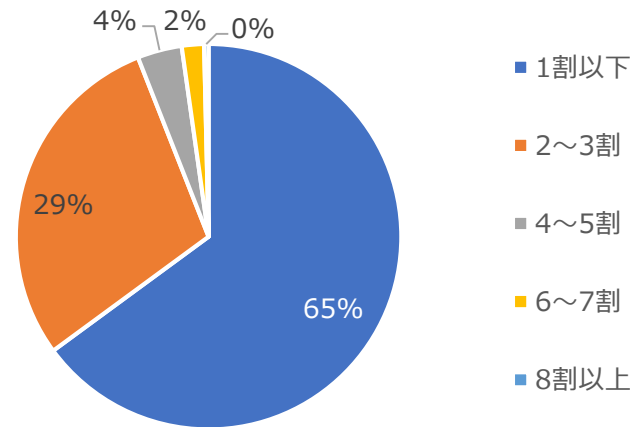
- 市場機会を特定し、（神戸PF等との）差別化
- ステークホルダーにおけるコンソの認知・理解・関与を高める

教職員における大学コンソーシアムひょうご神戸の認知



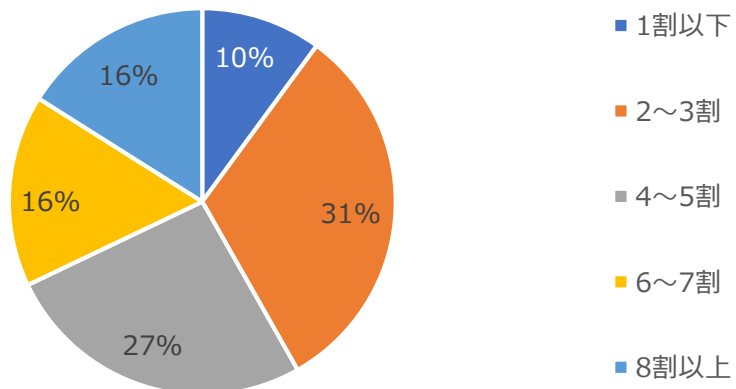
●職員・教員におけるコンソ認知は81%、理解度は59%。想定より認知されている状況。
 ●特に一般職員の課長以下には、一定の認知があると言える（合計38%）
 また教授も合計17%認知されており、“知っている人は知っている”状態。

自大学の「学生」の何割が、コンソを認知していると思うか？



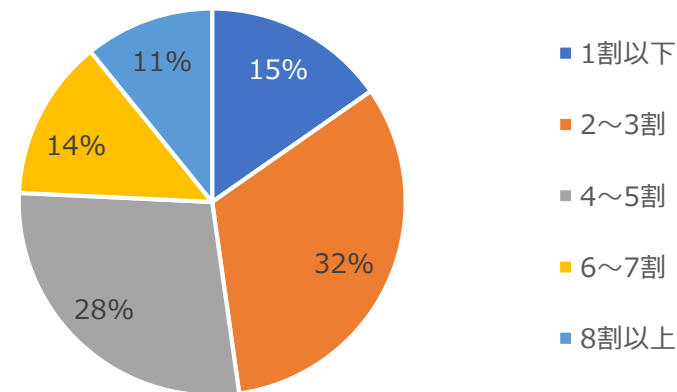
●過半数となる65%の人が「1割以下」と回答。
 自学の学生には10%も知られていないと認識されている。

自大学の「職員」の何割が、コンソを認知していると思うか？



●最も多いのが「2～3割」と回答（32%）。次いで、「4～5割」と回答（26%）。
 多くはないが、一定数の職員が知っていると感じている。

自大学の「教員」の何割が、コンソを認知していると思うか？



●最も多いのが「2～3割」と回答（32%）。次いで、「4～5割」と回答（28%）。
 多くはないが一定数の教員が知っていると感じている。

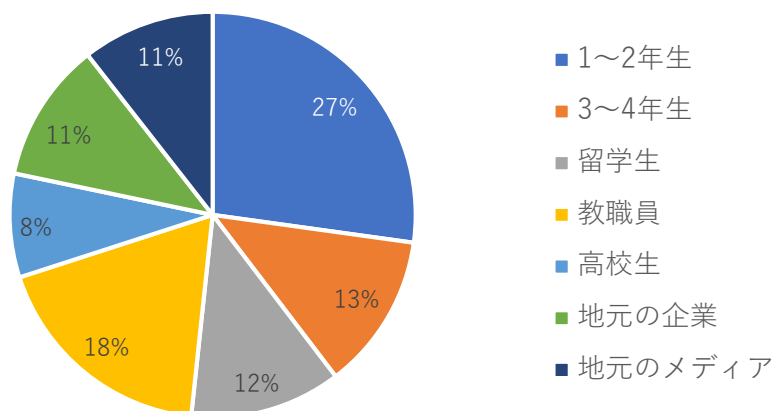
アンケート結果まとめ②

コンソの強み・特長と思うもの

加盟大学数	121	13%
加盟大学の合計学生数	48	5%
留学生ネットワーク	57	6%
留学生支援の実績	62	7%
キャリア支援の実績	41	4%
大学間の交流	178	19%
イベントの企画力	63	7%
地元企業とのつながりが深い	71	8%
産学連携の実績	77	8%
高大連携の実績	32	4%
FD・SDの実績	42	5%
加盟大学の教授や学生、OBOGの活用	25	3%
加盟大学とつながりある企業やスポーツチームなどの活用	28	3%
官公庁とのつながり	68	7%

913

コンソの認知アップのため、どの層をターゲットにすべきか



- 「1～2年生」を優先すべきとの声が多い。「3～4年生」向けを挙げる声は限定的。
- 「総合大学の教職員」を挙げる声が多く、いかに総合大学との交流を広げるか、リソース活用ができるかが1つの鍵と言える。

コンソのイベントの告知などは、どこで行われているか

学生向けホームページ	92	15%
留学生向けホームページ	22	4%
一般公開している大学のホームページ	79	13%
学生向けにメール送信	86	14%
留学生向けにメール送信	29	5%
学内の掲示板	161	27%
キャリア支援センター内の掲示板	35	6%
大学の公式SNS	26	4%
授業内で告知	15	3%
その他	55	9%
	600	

アンケートのまとめ

課題① 認知

教職員には一定認知があるが、加盟校学生の認知は10%未満。
⇒ **学生の認知と利用促進を高めるべき！**

課題② 理解

・「大学間の交流」「加盟工数」が強みと認識されているが、他は強みとしての認識が弱い。具体的なメリットベースでない。
・「加盟大学の教授や学生、OBOGの活用」「加盟大学とつながりある企業やスポーツチームなどの活用」等を活用できてない
⇒ **強みをより活用し、効果的・効率的なアピールをすべき**

課題③ ターゲット

対象学生は、1～2年生ないし高校生向けに行うべき
⇒ **ニッチターゲットではなく早期学生からの取込みを狙うべき**

課題④ 伝え方

コンソの取組の告知は、掲示板や学内向け／一般向けホームページが主となっており、“それ以外にない”感がある。
⇒ **SNSなど、学生にもっと伝わるチャネル活用を！**

加盟校の課題

- どの大学も共通するのは、入学者の確保、資金調達が主。
- 中小規模の大学に追加で共通して入るのは、認知やブランディングが低い、事務スタッフ不足。
- どの大学も喫緊の課題を抱えており、なんとかやりくりしている現状が見られる。

コンソ参画のメリット

- メリットとして共通するのは、学生の交流（他大学の学生やナレッジ等）
スタッフ目線では、職員同士の横のつながりや、研修などによる知識の補完が挙げられた。
- 私立の中小規模大学は、補助金採択のメリットも挙げられていた。
- 挙げられたメリットは教科書的なものが多く、実感値のある効果、課題解決につながるものかという意味では補助金の件を除くと、あまりないのが実情と言える。

コンソへの理想

- 全体的に、コンソへの理想像、希望はあまり挙げられなかった。
- 声としては、職員研修などスタッフ不足の解決が多く、中長期のゴールというより身近な課題解決であった。
- メリットの平等性や、大学同士がライバルでもあることから、大きく利活用できる組織という認識されていない。「明確なメリット」の成功事例を作り、増やし、認識を変えることが重要。

<加盟校のメリットにつながるコンソの役割>

≡コンソのプレゼンス向上につながる取組みの方向性

1. PR・プロモーション

…各大学の認知度の向上・PR強化が入学生の確保や外部資金の調達に繋がること。

- ①学生によるSNSアカウント運用
- ②共同開講

2. 学内業務の効率化

…若手職員に対して研修や、ナレッジの共有や機会提供、緊急時対応など

- ①FD・SDの共通化
- ②共同調達
- ③大学で働く契約職員の人材紹介

3. 外部資金の調達

…補助金や企業等から外部資金を獲得すること

- ①補助金・助成金サポート



アンケートでも必要性は示されていたもの



新たに必要性として検討すべきこと

<補足>

「学生同士の交流」「学生の学びの幅を広げる」ことは、一定できている、ベースとしてある認識。=事業として最低限の位置づけに近い。ここを担保した上で、出資者である加盟校が実感値としてのメリットを感じる必要がある。